

研究室名

生物機能化学研究室

主な研究内容と目指す将来像

生体の恒常性が崩れることで起こる病気を改善や予防できる様々な機能性分子の働きを、骨や小腸、皮膚等の器官の機能に注目して研究しています。体の恒常性という自己調節機能を様々な角度から検討し、機能性成分の科学的根拠に基づいた治療や予防方法の確立を目指し研究を進めています。また、生物資源から新しい高付加価値材料を創製する研究も行っています。

研究キーワード

骨疾患 / 生体恒常性 / 一遺伝子多型 / コラーゲン / 皮膚 / 腸内環境 / 免疫疾患

研究の魅力・面白さ

- ✓研究を進めていくことで、高齢化社会の問題を解決できる、今後の発展が大きく期待される分野です。
- ✓基礎の化学的な知識がどのように社会で役立っているかを知ることができます。
- ✓研究の課題を進めていくことで自分の研究がどのように社会の役に立つかを知ることができます。
- ✓地域資源の有用な活用につながる研究ができます。

受験生へのメッセージ

研究を通じて生体の恒常性調節機構の仕組みや疾患を解決する方策についての知識が身に付きます。また、地域資源から高付加価値材料を社会に生み出していきたい人を歓迎します!

連絡先

hihoshi@maebashi-it.ac.jp

遺伝子変異マウスの骨 野生型T



前橋は養豚が盛ん



ブタより抽出した
コラーゲン分子の顕微鏡写真

